

令和3年度 第2回 海老名市にぎわい振興審議会 会議録

日時等	令和3年10月15日(月) 13:30~14:45 海老名市文化会館 353 多目的室		
議題	(1) 「えびな元気にぎわい振興計画2021」の進行管理について (2) 令和3年度にぎわい振興事業について (3) 令和4年度にぎわい振興事業の検討事項について <視察> ロマンسカーミュージアム、海老名駅間地区開発状況		
出席委員	羽田会長、三田副会長、下津委員、加納委員、門脇委員、長委員、伊藤委員、三部委員、半澤委員 計9名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
事務局・説明者等	経済環境部長 金指、 経済環境部次長 佐藤、 商工課長 一杉、 にぎわい振興係 今野、増田、長嶋		

**議題1 「えびな元気にぎわい振興計画2021」進行管理について**

- 事務局より「えびな元気にぎわい振興計画2021」の実施進捗について説明
- 委員 マスクメロンやいちごのパウンドケーキなど食品系商品の販売が取り上げられたが、これらは単発なのか、継続していくものもあるのか。
- 事務局 いちごに関しては昨年度ハーバーが売り出されその第2弾となっている。継続の想いはあるが、いちごの出荷量にも関係があるのでまだ継続的にといったところには至っていない。マスクメロンについては、量は限られているが何年か続けて行われていると伺っている。単発ではなく継続したいと思っている。
- 委員 高座クリーンセンターの展望台は眺めが良いところか。
- 事務局 海老名市の南部にある高座清掃施設組合の改修に合わせ、クリーンセンターに設置したとても眺めの良い眺望スポットとなっている。
- 事務局 この施設は海老名市と座間市、綾瀬市の3市による清掃施設組合でごみの中間処理を行う施設となっている。3年ほど前に建て替えを行い、その中には焼却炉があって、し尿処理、粗大ごみなどの処理も行っている。それに合わせて、環境学習ができるように見学コースもあり、展望台も設置されている。遠くは横浜や新宿副都心が、南には江の島などが見渡せるが、コロナ禍も影響してPRが進んでいない。
- 委員 私も進行管理の説明を聞き、資料も事前に見ているが、市内の民間事業者の方々と連携を取り色々な形で展開されており、地道かつ着実に、にぎわいづくりが順調に進んできている印象を受けた。これまでの取り組みが実を結びつつ、また新たな成果が出始めているという思いで拝見した。

## 議題2 令和3年度にぎわい振興事業について

### ■ 事務局より、令和3年度にぎわい振興事業について説明

委員 全体的にかなり進捗されていることがよくわかった。大型店連絡協議会でも地産地消の部分で話があったが、先ほど委員からもあったように継続できるものを我々もどんどんやって行きたい。若い農家の方からもそう言ったお話があったので連携して拡げていけたら良い。いちごのパウンドケーキも農協だけでなく販路を拡げることでより認知度を上げ名物化できるのではないか。作る量は限られているが、お互い努力しながら海老名のおいしいものをどんどん拡げたい。

委員 106店舗中、訪れた店舗が56店舗ということで、訪れていない店舗に共通することはあるか。

事務局 印象としては先ほどから話が出ているようにコロナの影響により飲食店、特に居酒屋への来店が少ない。これから緊急事態宣言が明けて増えてくるのではないか。

事務局 スタンプラリーの事務局そして一参加者として思うことは、食料や日用品とは違い日頃あまり行く機会のない業種の店舗はスタンプにつながりにくい。しかし、各店舗の情報を目にする機会となり、スタンプラリー後にそのような業種の店舗を利用する際の参考になり、来店機会が増えるものと自負している。

## 議題3 令和4年度にぎわい振興事業の検討事項について

### ■ 事務局より、来年度のにぎわい振興事業の検討事項について説明

委員 いちごパウンドケーキを私もいただいたが、とても美味しくお土産にも良いと思った。いちごにちなんで、メロンパンのように海老名ブランドのいちごパンは出来ないか。

委員 過去に作ったことがあるが、うまくいかなかったと聞いている。

委員 いちごのジャムパンは昔からあるが、ポピュラーなので売り上げには繋がりにくいと思う。加工や日持ちの問題などはあると思うが、半生のいちごロールケーキなどの商品を作っていたら嬉しい。

委員 いちごパウンドケーキも限定商品ということで販売するお店は限られているようだが、市外の私からすると駅前のえび〜にゃハウスなどでも買えれば良いと思う。

委員 昨年ハーバーを作ったのは、その年にいちごわいんを作らなかったため、いちごが余り、ありあけに買い取っていただき商品化した経緯がある。その関係で販売場所も限定されている。

委員 今後、海老名のいちごをブランドとして商品化する時に、いちごそのものを販売するだけでなく色々な商品にするために作付けを行うことが可能であれば、もっと量が豊富になり、もっと展開ができるのではないかと思う。

委員 いちごの生産者も若い方が増え、市内で10軒ほどが生産している。いちごは日持ちがせず品質の管理が難しいため、その点が量産に向けての課題となる。

- 事務局 地産地消についても話し合っているが農家の作付けの問題があり、イオンさんやマルイさんからも年間を通じて店頭へ出したいと伺っているが、農家との調整が進んでおらず課題となっている。来年4月に予定している新たな農業法人の立ち上げにより、6次化に取り組んでいきたい。
- 委員 野菜は毎年同じように生産するのは難しいと聞いているが、販売すれば市役所で実施した「いきなり50円市」のように必ず売れる。綾瀬市や秦野市でもキッチンカーによる販売の実証実験なども行っており、海老名市でも色々な取り組みを行うと良い。あまりお金を掛けずに人が集まるという点でも良いと思う。進行管理も色々と統計を取りながら事業を進めると良いのではないか。
- 委員 どのような世帯層が参加されているかわからないが、収穫体験もとても良い。子供にとっても、コロナ禍でも屋外なので非常に良い内容。普段食べている物がどのように作られているか学べるのが良いと思う。事業も手広くたくさん進捗されており、今回拝見して感心した。今後、継続するべき事業とそうでない事業を検証して行く必要がある。
- 委員 スタンプラリーの台紙がA4版を1枚挟む形になっている。コストはかかるができれば一連にすると良い。